校訓　自主自律
学ぶ意欲
思いやる心
行動する力
学校教育目標
気づき 考え 実行する
心豊かな生徒

大地のけやき

第２０号　平成３０年１２月２１日　川越市立寺尾中学校長　福田和子

「教育が一人前の社会人をつくる」家庭や地域の願いに応える「守・破・離」の寺尾中三ヵ年教育

【２学期終業式のことば】

みなさん、おはようございます。１２月１２日に発表された１年の世相を表す「今年の漢字」は、「災」でした。記録的な猛暑となった夏の暑さは、「災害級」といわれました。台風による河川の氾濫等による甚大な災害、北海道胆振東部地震、大阪府北部地震など、大地震による各所での被害等、多くの災害が日本各地で起こりました。西日本豪雨による被害に対しては、本校でも生徒会を中心にした義援金の活動を行いました。多くの災害が発生した一方では、その復旧に、多くのボランティアが活動していることにも注目が集まりスーパーボランティアの尾畠春夫さんの活躍もありました。現在も国内の各所では、総力をあげて復旧活動が行われています。

さて、２学期の始業式には、今学期をよりよい学期にするために、２点お話ししました。

一つ目は、いじめのない誰もが安心して生活できる寺尾中にしていくために「人が嫌がること、自分がされたくないことをしない」「人のことを大切にする」

二つ目は、一人一人が力を高めていくために「自分で限界を決めない」「いやだな、やりたくないなということも我慢してやる」「目標をもって頑張る」

そして、学校朝会では、「人との関わり方」について「自分の考えを言葉で伝える」「相手を理解するために相手の考えを聞く」ということも話しました。

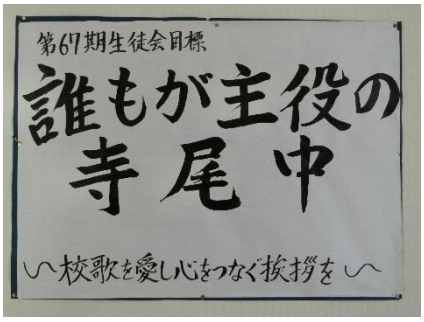
そうした中で、３年生の面接練習のときに、「寺尾中学校の自慢できるところ」を聞くとほとんどの人が「洗心無言清掃」と答えています。寺尾中学校の伝統を作り上げている一人であるという自負とともに仲間と協力してやってきたことが、大きな自信となり、誇りとなっていることの表れだと思います。

私達人間は、人との関わりをもちながら生きています。そういった中で人との関わり方をしっかりと身に付けることが、社会の中で力を発揮していくことにもつながります。これからも寺尾中学校での様々な活動を通して皆さんが、自分を伸ばし更に飛躍することを願っています。

この後、担任の先生から通知表が手渡されます。内容をよく読んで２学期のまとめをして新年や３学期に向けて目標や決意を新たにしてください。

最後に、事故防止です。年末・年始は、出かける機会が多くなり自由な時間も増えます。交通事故の防止、ライン、ツイッターなどのＳＮＳによるトラブルは、絶対回避する。インターネット、スマホなどのゲーム依存にならない。そして、自分を大切にする。

自ら学ぶ生徒、自らを磨く生徒、自ら鍛える生徒。一人一人が輝ける活躍の場がこれからもたくさんあります。この１年を締めくくり、素晴らしい新年にしていきましょう。



落ち葉の時期が長く続いた今年は、落ち葉掃きのボランティア活動が、１２月１９日まで続きました。生徒会本部を中心とした活動に感謝します。図書委員会では、ベストリーダー賞を発表し、各学年、学校図書館から借りた本の冊数の多かった生徒が表彰されました。

3学期につなげる「洗心無言清掃」 ～清掃班長会議～

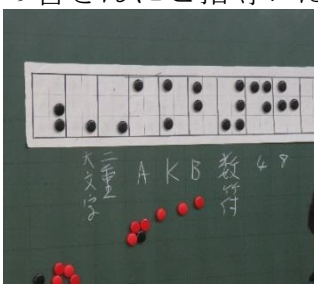
寺尾中学校の「洗心無言清掃」の取組の一つに「全校清掃班長会議」があります。各学期の終わりにそれぞれの清掃場所の取組状況を報告し合うことで課題を明確にしていきます。今学期は、会議での話し合った内容が、翌日の「大掃除」に生かすことができるよう、各班長から班員に伝える時間を設定しました。最上級生である３年生や「洗心無言清掃」に一生懸命取組んでいる生徒の皆さんの思いが生徒全員に伝わるよう、寺尾中学校の「洗心無言清掃」が更に発展進化していくように願っています。

生徒の学校生活の様子から

３年生　性に関する学習　１７日（月）
　　福祉体験学習　　１８日（火）

今年度の３年生対象の「性に関する学習」は、各クラスの担任と養護教諭のＴ．Ｔでの実施となりました。実験を通して「性感染症」に感染していく仕組みを実感することで自分やパートナーを大切にすることやこれからの生活を充実させることにつなげる学習となりました。

また、「福祉体験学習」では、「手話」「白杖」「車椅子」「点字」について実際に体験を通して学ぶことで広く社会や自分の生き方につなげ、考えを深める機会としました。「グループシャボン玉」「点字クラブたかしな」「川越手輪の会」の皆さんにご指導いただきました。



中学校の３年間で人との関わりを通し、「学び」「体験」することで、一人前の社会人としてのベースができ、力がつくよう願っています。

【お詫び】
「大地のけやき１９号」家庭学習ノートの優秀賞、連続提出賞に記載漏れがありました。お詫びして訂正いたします。
「優秀賞」２名　「連続提出賞」２名　これにより「優秀賞」は、合計４５名「連続提出賞」は、合計１３０名となり、「家庭学習ノート」を連続提出している全校生徒の割合は、３４．９％になりました。家庭学習の習慣化、内容の充実につながるよう引き続きご家庭での声掛けをお願いいたします。